常磐毎日新聞

十二月二十一日　夕刊

日刊

發行人兼編輯人　坂本勇治
發行所　常磐毎日印刷株式會社
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
電話　六三〇番
（郵便振替口座）東京四〇二〇〇番

敷地買收も決定し
愈・泉線大擴張に着手
大小名濱の玄關口として
面目一新される

小名濱町高山日素工場完成と共に元の磐城海岸航道が臨港鐵道となつて許可になつた爲め其中繼驛たる泉驛が一大擴張するに至り臨港鐵道側の引込線と同樣ド威らい擴張に要する敷地は驛東北三千坪は吉田盛彌氏外二名の住宅地外畑地であつたが兩者間に一致を見るに至らずして行悩みの狀況に置かれたのであつたが此程友部泉驛長の奔走盡力が地方側の認むる處なり何れも友部驛長の斡旋にも決定さしもに難問題視された敷地買收最後の目的も意外に早く完了したので時を移さず家掛木の模樣、家屋の移轉等を完成せしめ驛接續工事を起し大量輸出入の貨物を呑吐するに然かも遺漏なきに至る整備に進む筈で泉驛の將來の大驛たる事は時間の問題とさるに見通しがついた譯けであると

利權漁りの人々で
市内旅館は超滿員
營業者も喜しい悲鳴

平市内における二十余軒の旅館業者は股賑産業の波に乘つて屋幅廣く活躍してゐる石炭、木炭ブローカー、鑛山業・鐵工業者など／＼の投宿で何れも各部屋超滿員といふ活況？を呈してゐるがこれがため一泊二泊の外來客などはどこの旅館を訪れても〃お斷り〃を喰ふ始末で外來者間に非常な恐慌を來してゐる、今二十一日朝平署に提出された營業者からの宿泊人屆を見ると滯在客が斷然多くしかもその滯在客は石炭、木炭仲買、鑛山業鐵工業と時局下における花形戰士によつて占められその數は百名を突破してゐる、毎朝各旅館から出るお客の姿が卷脚絆に乘馬ズボンスキー帽といつた具合の山元往復者だから他の都市には到底見られぬ異風景が描き出されてゐる

鮟川へ稚鮎
十萬尾放流

東北における鮎の産地として天下に知られてる石城鮟川ならびにその支流の四時川へ鮟川漁業組合では年々海産或は琵琶湖産の稚鮎を三萬五萬をと放魚してゐたが明年は一層増産すべく二千圓を投じて琵琶湖から稚鮎十萬尾を移入、來春早々放流することゝなつた

優良團員表彰

泉村青年團ではこの程總會を開き優良團員佐藤千歳、鈴木庄次郎、江尻良雄の三君を表彰したほか聖戰に參加して名譽の戰傷を負い又は疾病將士に對して歸還後の健康狀況を調査するの必要から郡下一齊に執行する事になり小名濱町にては昨二十日湯本役場に於て實施したが健康狀態は非常に良好にて將士中には恢復後は再出征を出願せんとする猛者も數多きに上つたとの事である

再び出征を願ふ
戰傷歸還の勇士
健康調査に現れたこの感激篇

この男は宮城縣涌谷町生れ目下住所不定砂金宏作（三九）といふスリの常習犯でこともあらうに警察官の目の前で放れ業を演じ鼻を明そうとして失敗したものでとてもかなひませんと引捕へた

また警察署側では面目を取戻して大喜び、講師として出席した佐久間本縣刑事課長もこれこそ生きた御手本だと褒め讃へてゐた

しよげ返つてゐる

防犯の講演最中に
巧みにスリを働く
▽―實に驚いた手の長い曲者
昨日聚樂館で捕はる

これは驚いた！こともあらうに防犯の講演中スリを働かんとして檢擧された大膽不敵な男がある―平署の防犯講演と映畫會は二十日午後一時から聚樂館で開催されたが丁度柴田平署長が「スリから逃れる虎の卷」を講演中二階で聽講してゐた市内南町志賀作太郎さん及び田町篠原松太郎さんの洋服のポケットへ手を入れてゐる怪漢を笠原刑事が發見有無を言はせず

煙草の空箱で
國家へ御奉公
平出張所處分方法決定

專賣局平出張所管内の小賣人組合では既報の如く今年五月から煙草の空箱回收運動を開始したが「空箱を棄てないで下さい」とか「煙草を買ふ人は空箱を持參下さい」と各店頭に貼り出したビラが効を奏したものかそれ／＼店先に設置されてある資源愛護の箱に一つ二つと投げ入れられ現在では相當數に上つた模樣で近くこれを賣却軍人援護會縣支部に寄附することになつたがこれなどは〃塵も積れば山となる〃の譬ひを地で行くもので組合では今後一層空箱回收に拍車をかけることになつた

大陸を旅して（二七）
篠山　廉

支那人の長所と短所

短時日の視察で、こんな大きな問題まで述べる事は、全くおこがましいとお笑ひを買ふかも知れぬが、思ひきつて書いて大方の批判を仰ぐ事にしよう。

先づ長所として第一に擧ぐべきは漢族の同化力の強いことだらう。今東洋史を繙げば、漢土は幾度か、他の強力な民族から武力を以て徹底的に征服せられたが、彼れ等は常に自己の文化と經濟とを持つて征服者を同化し去つたことである、彼の元といひ清といひ武力を以て、この地に闖入しても、一度漢人の文化に接すれば、勇敢なりし征服者は漸次、漢文明の心醉者と化し風俗も、習慣も遂には血統まで、漢民族に沒入し自ら漢民族を以て自ら許すに至つた事は歴史の證する所である。

次に彼等の發展力の強いことである、世界到るところに、華僑が蔓延して居る、これには種々の原因もあらうが第一身体が強健で寒暑何れの氣候にも適應するからであると思ふ。次に國が馬鹿に廣く國境とか國家とかいふ觀念が、海に圍まれた狹い天地に居る國民に比較して甚だ薄弱であるからだと思ふ。しかし一方から考へれば文化が甚だ低く衛生思想が發達せず勞銀が安くその生活程度が低いことがどこにも住める理由かも知れない、其他彼等は極めて忍耐力が強い苦力などが何か譜負仕事に從事すると全く休憩時をとることなく食事もせず平氣で十五、六時間位ぶつとほし働きつゞける、このねばりの強さは驚くばかりだ、試に大連の埠頭などで働く苦力などを見るとあの豆粕の玉を三、四枚苦しそうな顔もせず肩に擔つて運んで居る、こんな働きをする又彼等の食事をするのを見ると高粱の粥と小麥粉で作つたかと思ふる煎餅樣のものと、生葱二三本をかじつてすごす其價か、一錢銅貨二枚か、三枚でまにあふので一日の生活費は十錢もあれば腹をすかさずに過る事が出來る、便利な生活振りだ、以上は彼等が他の民族に比して長所として見らるゝところだらう。

しかし彼の民族が現在何故に不振を極めて居るだらう、其原因が種々あることだらうが、その主なるものは彼等は前述の通り國家的の觀念がなく、凡てが利己的だといふ事だらう、即ち自分さへ都合がよければ、他人はどうでもよいと先天的に考へて居るらしい、漢籍に『日出テ、耕シ日入リテ息フ帝力何ゾ我ニアランヤ』といふ句があつたが、誰が、政權を掌握しようとそんなこと吾人には何の關係がないと嘯いて居るのだ。

こんな彼等に興亞大業の意義を知らしめ八紘一宇の聖業を理解せしむるには皇國の民としての責務の實に重大なることと考へねばなるまいと思ふ。

今年のお正月は
學生達も家庭で過す
燃料不足から

平市内の各中等學校では冬休みの勤勞奉仕について研究を進めてゐたが縣からの通知に先立冬季休業中は家庭において適當に心身の鍛練をさせ集團的勤勞奉仕は行はぬことになつた

これは學校の燃料不足が主因だが農村では家庭勞力が不足してゐるものがあるので補充の意味からこの方針をとつたもので

中學生達は今年のお正月は各家庭で過ごせる譯である。

斷然多くなつた
木炭の贈答
關係方面でも吃驚

植田木炭檢査分所管内（植田町外五ケ村）だけで十五日以降年末半ケ月間に八千俵（内二千俵縣外移出）の木炭が生産され、同地方の木炭飢饉はまづ心配無用となつたが深刻な木炭難になやむ東京面の親兄弟達に〃年末の温い贈答〃をしやうと植田檢査分所管内だけで縣外移出制限實施の十五日から今日まで早くも六百八十三俵（制限高二千俵の約三割）が自家用移出としておくり出され關係者をびつくりさせてゐる

マツチ飢饉は
業者の賣惜み？
平署徹底的取締開始

ガソリンから木炭の闇取引悪ブロカー檢擧等々〃反國策事件〃の取締に起となつてゐる平署では最近顯著となつた生活必需品の買占め、賣惜みをなしてゐる奸商の取締を行ふことゝなつたが最近に於てはマツチ逼迫せりといふ噂から市内の小賣店では配給不足を補にとつて精々一個か二個しかしてゐる店もあるのでこの程調査したところ配給は不圓滑どころか問屋への共販會社よりの配給は何等減じて居らず需給關係に於てどこかに缺陷ありと見て引續き調査の結果小賣店に於て暴利を占めんが爲め賣惜みをなしてゐるといふ事實が判明したので近く徹底的の取締陣を布くことゝなり準備を進めてゐる

共德丸（小名濱）の
記錄破りの水揚
昨日の稼一万六千圓

本年度揚繰漁業の水揚げは驚きに諏訪丸の一日一萬圓水揚げを最高記錄として一般から注目されて居つたのであるが昨日共德丸の一萬六千圓の水揚げを見るに至りたる爲め之れが空前絶後の記錄となるとして歡聲天地を搖がせるに至る活況を呈して居る

汽罐士試驗
平方部合格者

本縣第三回汽罐士試驗はこの程行はれこれが結果は二十日縣工場課から發表されたが地方關係合格者は左の如くである

△一級＝中島貞、植田堀江靜美、同助川英一郎雜波一郎、二級＝倉

街の探偵

淺野君から表彰

既報、平署では二十日午後一時から市内聚樂館で防犯講演會を開き伊藤平市助役、佐久間縣刑事課長等が交々立つて市民に防犯を強調また統制違反の防止についても市民の協力を要望するところあつたがこの席上犯人逮捕の殊勲により左の三名が刑事協會平支部から表彰された

△平市淺野孝治△湯本大谷順治△小名濱町高橋ます

特別助成村決定

大浦村及び山田村はこの程農林省から十四年度特別助成村に指定された

英靈無言の凱旋
既報　北支

戰線で名譽の戰死を遂げた小名濱町出身小野貫吉工兵上等兵の英靈は二十三日午後六時五十三分泉驛着で無言の凱旋をする

仙台藩人會で寄附

既報、平市在住の仙臺郷友會では過般總會を開いたがこれが費用を節約今二十一日市銃後奉公會に金十圓を寄附した

老媼の篤志
自作田の益金を

小學校へ寄附

泉村吉田タキさんは一反歩を自作した益金の中から二十五圓を同村小學校へ寄附感激せしめた

勞務動態の調査協議會……泉村では

午前十時から役場で勞務動態調査協議會を開く

レコード鑑賞會

植田町菊田齒科醫院主催のレコード鑑賞會は二十四日午後一時から植田校で開かれる

田人局電配開始

田人村郵便局では今二十一日から電報配達並呼出事務を開始した

平市人事

◎出生
紺屋町七石橋德三郎氏二男孝之君

回死亡

△五丁目二七陽造氏姉星野愛子さん（三〇）

ラヂオ
今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間　おはなしの會
▼後六、二五　講演「南支那の資源と其開」發福田要
▼後七、三〇（國民歌謡）國民奉祝「紀元二千六百年」指導澤崎定之
▼後七、四〇　浪花節「日蓮上人の法難」酒井雲
▼後八、二〇　師走の味（錄音）
▼後八、三〇　時局談話「百億貯蓄は果して出來るか」木内四郎

明日の部

▼前九、四五　幼兒の時間　童話劇「うさぎの白ちやん」大阪花びら會
▼前一〇、〇〇　家庭メモ
▼前一〇、二〇　家庭の時間「來年の兒童の鑑錄」吉田章信
▼後〇、〇五　輕音樂「ハーモニカ獨奏」仙臺ハーモニカアンサンブル
▼後三、〇〇　婦人の時間「戰線の冬」川上麗
▼後五、三〇　講演「事變下一ケ年を回顧して」高木義人
▼後六、〇〇　子供の時間　お話「日本では今電氣が大切です」山本忠興
▼後六、二五　講演「進歩せる水産貯藏と加工品」木村金太郎
▼後七、三〇　國民歌謡
▼後七、四〇（中支より）
▼後八、〇〇　民謡めぐり「琉球の巻」東京放送管絃樂團
▼後八、三〇　連續ラヂオ小說「不惜身命」前進座河原崎長十郎、山岸しづ江はか

品用と　カメラ
受引　現像

お用命は
西村寫眞局屋藥部
平2・電3

戰國門言葉傳
大井沢山科一郎作　龍一郎画

第百四十四回

寺（てら）

（一）

この[illegible]上人といふのは鎌倉七十餘年の昔、[illegible]の[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

米穀不安の對策

岸近市子

米の値上げは、非常に大巾の値上りではない。しかしこれで一挙すぎた先まで吹ひ止めることができるだろうか。

……

輸入米の法令には、米穀の強制買入れ、官庁の倉庫等への強制輸送の命令等までみとめてあるが、これを果して今度のさわぎにもあつたといふ悪質商人の惡業を抑へることができるものだろうか。疑ひなきを得ない。これは統制自由二面の相矛盾する統制機関の作用から生ずる現象である。

……

……小ばなし……

「米屋さんに赤ちゃんが生れたとさ」「むゝ、はたよ、いゝ子だからと色が黑いな」「仕方がありません」「なぜだ」「十一月十日から七分搗ですもの」

國民の主食である米は、國米人にとつてパンと同様に生活の中心である。ここに國民の不安があつてはならない。政府はこの際米の統制を今一歩強化し、政府自身が生産者たる國民より相當の高値で買上げ、これを適正の價格で國民に賣る方法をとるべきであると考へる。かうして中間の利潤を排除し、國民の負担に責任をとることを國民に示すべきである。それによつて生ずる多少の金額上の不利益は國民から不安感をとり去る利益にくらべては問題ではないであらう。

私はこんな身體で結婚してよいのかしら

くよ〳〵惱むがみんな根も無い

適齢女性の自己診斷法

結婚シーズンです、そして結婚こそは人生最大の喜びであり勝利であるのですが、さていよいよ結婚といふ問題が目の前へ現はれてくると、若い女性は今度のやうに悲觀される、にんもんされる。そしてそのはんもんの多くは自己の適性問題についてです。各種個人相談部へ殺到する質問も實にこの問題が多い、これは未知に對する不安に結婚生活をすることは結婚にいけません。つまり女の方はこの結婚に不安を感じてはいけません。

多くは誤解でそんなのです、つまり結婚は生理的に分泌する所で殆ども自然や睡眠が分泌されると同じです。だから分泌はあるのが本當で、秘密にしかしもあるのが結婚は結婚にさせるべきで、家門家に結婚なさるのがよろしいのです

少上申し上げたのが私の經驗からすると一番多いもん腔ですが、その内の多くは誤解ふそくから自分で思ひ惱んでゐるのであつて結婚の資格は確実にあるのです

從つて醫學の方々も、若し婚が分に結婚せぬ際はくだけてよく相談相手となり性的に正しい知識をあたへつまらぬ心配を除去して明かにしてあげることです。最後に性病は本人の不倫はもちろん國家にも反することですから、極力強制につとめ性的健康結婚をとりかはすべきです

木枯し時のお化粧

お顔を白くするばかりがお化粧ではありません

銀をつけたい爪

目と唇と手とは女性美の三大要素です。手を美しくするには、まづ爪を磨めてください、しかし爪の形は目下丸いやさしい風のものがよろしい、切つた後は紙ヤスリでこすり、オレンジスチックで爪の根元のアマ皮をとり、そのあとへゴールドクリームをつけます、そしてバツファかホルのきれる光澤をだしますだけでよろしい、爪に色を出したい方はこのみのエナメルをおぬりになつて結構ですが、あまり眞紅なのは時代柄おもはしくありません

長い間にエナメルは、はげますからリムーバーを使つて一旦古い色をとり、新しい化粧をなさるやうにすべきです

お肌が知れる耳

肌だけ白くて耳あかのついてゐるのはお肌が知れるお化粧です、耳にも顔へぬつた同じ白粉、または水白粉を全體にうすくつけます。そして耳たぶに紅をさした上の方をぼかしておきます

美しくあれ、唇

紅唇には、唇の紅とよくふさぎとります、そして紫紅色は行りましたが唇の形は唇をどうにでも從へるのですから御自分の顔に適合つた形を十分に研究しておくべきです、眉の生え際には皆眉にカミソリを立てゝほんやりとぼかして自然の月なりにするのが一番結構です、手入れとしてはまづ初めに油をつけて小さいブラシで無くこすり、眉墨の線は粉のほ小さいハケでつけ、ペンシルは墨をひいたあとハケで

ばかします、目頭はうすく目尻に濃くつけるのが原則で更に濃へばかしますと上手に仕上ります

壁宅は壁宅墨を塗る時ハケを上へ

ブラシをしますと、自然に立ちますが目のことですから自分のよい感をえらんでいただきたい、まつげ

ディトリツヒ紫紅色は紫紅色が一時流行

醫に適つた唇と壁宅

上手に粥を煮るコツ

すから、おすゝめはできません

粥の かわり目にはとかく粥人が

できやすいもの、おかゆの釜方も一應は心得おくことでせう、まづコツは水の分量にあります、大抵の粥鍋としては米五勺、これを減つたらざるにあげ水を切つておく米は米五勺に對して一合粥は九勺

鍋は米五勺に對して一合粥は九勺

鍋は、米の量が倍せば、それに從つてこの鍋で炊します、これを中火でとろ〳〵と煮て、ふき出しさうになつたら、ふたを三分の一ほどあけて、ふきこぼれないやうに押蓋トロトロ鍋長に煮るのがコツです、煮てる間に時々かきまぜますと、ねばりのつかないものです、ふきこぼれたらすぐ火を弱くしてかきまぜます

スフの運動靴

かうすれば強くなります

スフ製の運動靴や地下たびが耐久に現れて來ましたが、何分にもスフは今のところ耐水性に乏しいのが難みの種で、殊に雨天の時にはほとんど使用に耐へません、そこで醫工業研究所で研究しました、次にその方法を紹介しませう

硫酸用スフ强化鹽布鄰（鹽酸用

製法 コールター一〇〇グラム

この中にパラフイン二五グラム及木蠟一〇グラムをとかし込み、よくかきまはしながら次第に冷却し次にテンピン油二グラムを入れて

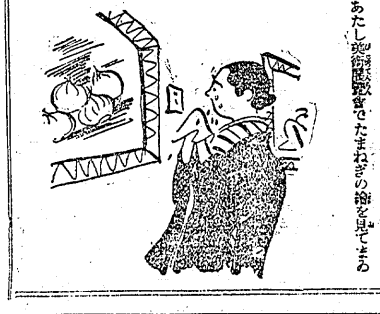
よくこね合せます

これ等の薬品は薬局へ行つてもらつてください、分量は二匁分（一三〇グラム）で約五枚位です

使用法 この液に靴下をつけてすり込むやうにしてぬればよく、必ずしもあつくぬるには及ません、一回ぬれば相當長く使用できるもので、大人用靴には一回約六〇グラムあれば十分です

○…防寒靴の代用にとう底手袋をクツ等にしまふときによく破損したとうがらしを十本くらいづゝいれておきますと防寒靴にもまた防寒靴にもしたのが有ります、使ふ時にもしようのうやナフタリンのやうな臭い香もなく大へんつ合がよいのです、これはおひなさまを飾つておく時など用ひられた日本古來の方法ですがこの際もう一度とうがらしを利用しませう

感泣



甲夫人「今日、あたし嬉しくてたまねぎの涙を見てるうりましたわ」

夫人「嬉しくて涙の？」

甲夫人「えゝそれがあまりに嬉しくて泣いたので、あたしの目から涙が出ましたわ」

時局小說 蕎麥進士

北野 樹 傳画

第三十九回 魔の手（五）

タタタタタタ……と、廊下の遠の音がきこえ、双葉の方にこたへるのであつた。

双葉は逃げるやうに、そして、はれるやうにしてガラ窓の二重を出た。足は鉄鎖のうちに、窓の方に飛んで行つた。

「……」

窓際に前に立つた時、双葉のいたにことばつたやうになり、ロボクツと泣きつた。

「双葉さん」

中から待つてゐたやうに醫師の聲がした。

「……」

双葉はハツとして身を引いた。

「早くやすまないと、風邪を引きますよ」

「……」

双葉は三歩し退してから、クルッとからだを二回轉して歩いて二廊車に入つた。二廊車を歩歩に廻り抜けると、食堂車にた。食堂車には、五六人の客が、腰を掛にして、何か大きな聲で喋りあひ、笑ひあつてゐたが、双葉の方を見ると、驚したやうな顔をして黙つてしまつた。

お客の醫師が双葉の方を見つた

双葉はムッとした顔立ちを見えた

醫師はムッとした顔立ちを見えた

三廊車に入ると、スチームと人

蔵とがムンと顔に來て双葉は顔が熱くなる感ひであつた。

ドアを入ると、しばらくそこに立つて、じッと、客を眺めやつた。

醫師に聞かせたくないやうな

「早くやすまないと、風邪を引きますよ」

「……」

双葉は三歩し退してから、クルッとからだを二廊車に入つた。二廊車を歩歩に廻り抜けると、食堂車にた。食堂車には、五六人の客が、腰を掛にして、何か大きな聲で喋りあひ、笑ひあつてゐたが、双葉の方を見ると、驚したやうな顔をして黙つてしまつた。

お客の醫師が双葉の方を見つた

双葉はムッとした顔立ちを見えた

醫師はムッとした顔立ちを見えた

三廊車に入ると、スチームと人

蔵とがムンと顔に來て双葉は顔が熱くなる感ひであつた。

ドアを入ると、しばらくそこに立つて、じッと、客を眺めやつた。

醫師に聞かせたくないやうな

のは、一廊大きな女の子であつた。

「さう、あまり面白さうな笑ひ聲が聞こえたから、私も仲間に入れてもらはうと思つて來たの」

双葉はさう云つて、みんなの中へ割り込んで行つた。

「三廊さんどうぞ」

「双葉さんがお上手だわ」

「三廊さんが醫師うまいわ」

みんながさう云つて、醫師の客が「うるさいッ」

「……」

「……」

「……